



新聞畫會

第 一 號



選卒ハ人皆無益のやうと思ふこと
 其功能ニ少くも別て痴病を治すハ能く
 既六月五日午前三時大阪天神橋ニ投身有
 規則の如く陰陽両体拾り合せて流し居たり
 巡邏其外五六名にて引揚療治を加へり
 蘇生志あり男ハ西京笹屋町飯森宗吉とて
 廿一の若盛り女ハ同所中立賣中島某が母の
 志津四十二年の年増後家三年前ハ馴合しが
 金と手づかり身投と色ハ思案外の外
 越たる遊女とて死あんとせりハ
 痴漢の親王此難病を救ひしゆ
 余の巡回散の功能なるげや
 四十と廿ハ言割に當りたれハ
 一進ハ四二天地の故あんと
 一進ハ子救うめくこと
 海もあ橋も入らば
 本文ハ兩人の書置あれど思ふく



新聞畫會

八民善